

鉛筆デッサン (3時間)

入学試験問題

【問題】

机上のモチーフをデッサンしなさい。

【条件】

1. 答案用紙は縦横自由。
2. 目隠しカードの上に、画面の「上」を示す矢印「↑」を必ず書くこと。
3. モチーフは必ずしも全体を描かなくて良い。

【出題意図と評価のポイント】

H30年度は静物台の上に置かれたモチーフを指定された場所からイーゼルを立てて鉛筆デッサンする試験とした。台の上にはストライプの布が敷かれ、中央にコーヒー樽、その中から置かれたコーヒー豆入れの麻袋が出ている。その周りに四分の一に切られたカボチャが二個置かれている。問題文に書かれているように、全てを描く必要はない。

出題のポイントは「台」と「モノ」の関係。床面とモノの置かれた接点がどう見えているのかに注目した。その台の面を強調するためにストライプの布を敷いてある。モノには大きさや質感がある。柔らかさや硬さ、どんな素材なのか、さらには人工物なのか自然物なのか。そしてどんなかたちをしているのか。あるいはその構造はどうなっていて、どのようにつくられているのか。描写力は訓練の賜物と言える。3時間という短い時間で自分の「デッサン力」を最大限に発揮した作品が高得点を得る結果となった。

【配布物】

1. 試験問題
2. 答案用紙 (B3画用紙) × 1枚
3. 下書き用紙 (B4上質紙) × 2枚



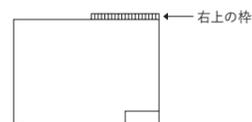
デザイン (3時間)

入学試験問題

【問題】

配付された資料を用いて、あなたにとっての「時」(「時間」[Time])を自由に色彩構成しなさい。

画面右上の与えられた枠内に20字以内でどのような時を描いたか記入しなさい。



【出題意図と評価のポイント】

与えられたアルファベット文字「TIME」の変形や加工を通して、各人の「時(TIME)」のイメージを自由に色彩構成することを求めた。時、時間そのものは概念的なものであり、決まったかたちはない。しかしすべての人は「時」に対してそれぞれ多様なイメージを持っている。それは時計などの装置や物理的な何かの変化や動きの場合もあれば、人の心における認識の変化もあり得る。画面右上に「どのような時か」を20字以内で書いてもらった理由は、その「時」の雰囲気や印象または状況などを手掛かりとしてイメージを膨らませてもらいたいと考えたからである。言葉とイメージの相互作用は視覚伝達デザインの両輪を成す。採点は上記の出題意図に基づき、作者がどのような「時」のイメージを構成したか、それが見るものに伝わったか、をまず見ていった。さらに解釈の多様性を尊重しつつ、イメージの明快さ(表現力)、着眼点のユニークさ、空間(画面)構成のダイナミズム、色彩構成力(美しさや適切な使用)などを基準に、総合的な視点から評価を行った。本年は繊細で知的な解釈の作品が多く見受けられた。

【条件】

1. 配付された資料(文字)の形の変形(部分、拡大、裏返し、ゆがみ、くり返しなど)は自由。
2. 使用する色数は自由。
3. 描画画面は与えられた紙面全体とする。ただし紙の余白は白色とみなすので、必要に応じて余白部分があってもかまわない。
4. 答案用紙は横長で使用する。
5. 右上枠内の文字書き込み部分は塗りつぶさないこと。
6. 包装材はモチーフではない。

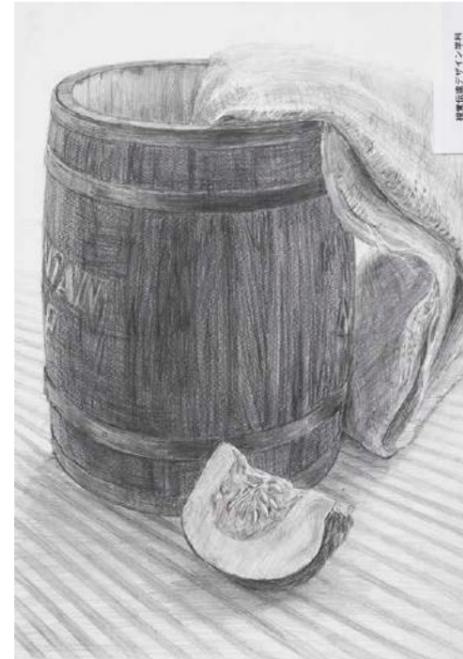
【配布物】

1. 試験問題
2. 答案用紙 (B3ケント紙) × 1枚
3. 切り抜き文字セット × 1セット
4. 下書き用紙 (B4上質紙) × 3枚



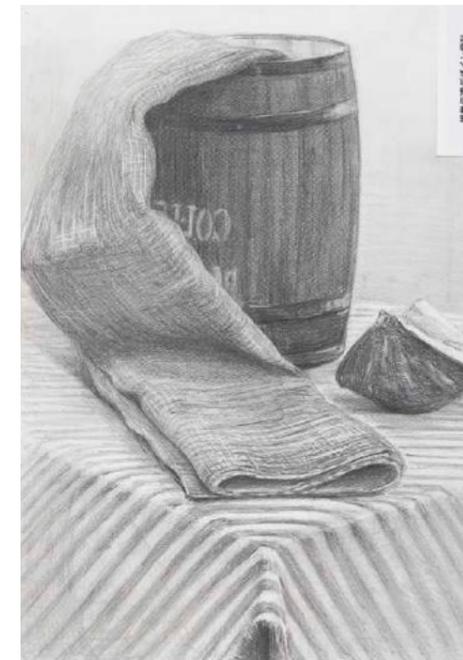
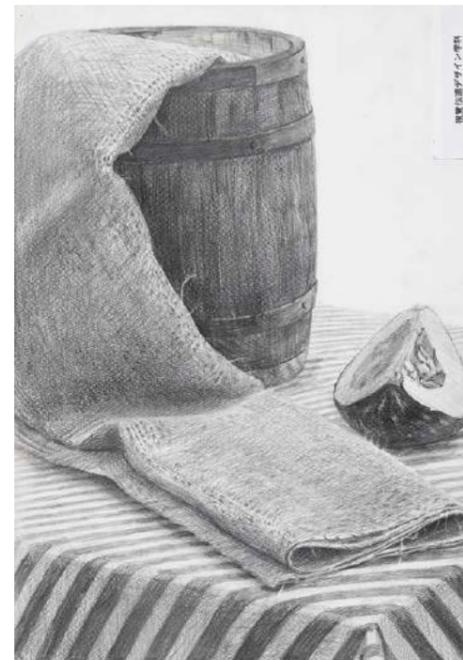
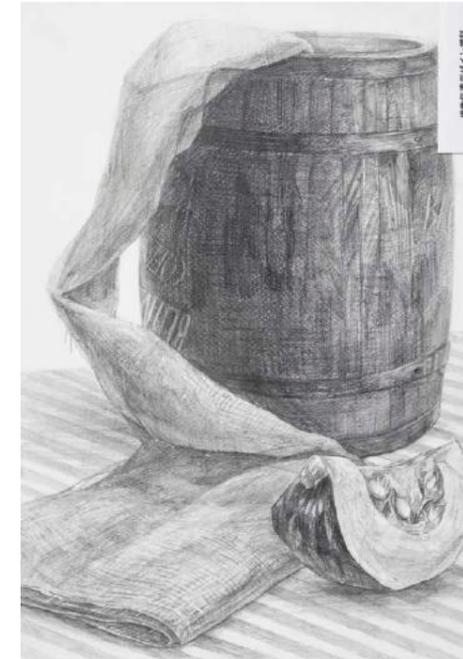
教員コメント

モチーフを画面一杯に大きく入れた堂々とした構図がよい。樽の籐の回り込みが弱い点、カボチャがやや小さくなってしまったこと、床のストライプのバースがやや不正確など、欠点はあるが真正面から取り組んだ好感の持てるデッサンである。



教員コメント

樽の左右の影が異なってしまった点、布のストライプが逆バースになってしまった点など欠点はあるが、樽の木目や質感の表現、丁寧に繊細な鉛筆のタッチ、トリミングと省略で迫力ある構図にするなど、模範解答と言える作品である。



教員コメント

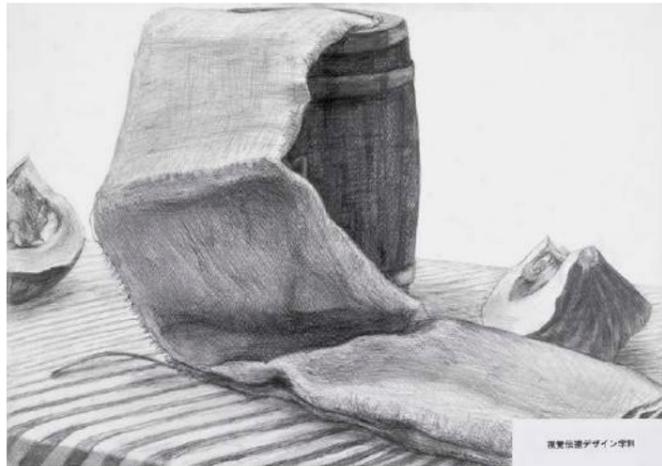
手前のテーブルの角を入れ、樽の後ろにテーブル面が奥行きとなって広がる空間表現がよい。麻布を大胆にトリミングしたため、画面の左側が右側に比べ空間感のない表現となってしまったのが残念である。

教員コメント

床の布を描こうという意図、意志が画面からよく伝わるデッサンである。この点が制作の中心になったのだろうか。樽、麻布、カボチャがやや小さくなった。背景も含めた空間意識を感じ取れる好感の持てる作品である。

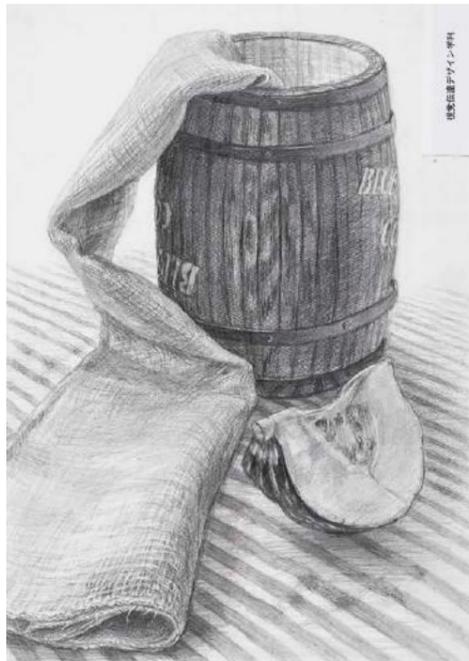
教員コメント

デッサンは見えるモノを写し取るように描くことではない。モチーフの何を描くのか、中心をどこにするのか、といった構図決めの基礎的な部分に欠点がある。左のカボチャは省略すべきだろう。しかし、真っ向から描いてやろうという強い意志を感じさせるデッサンである。



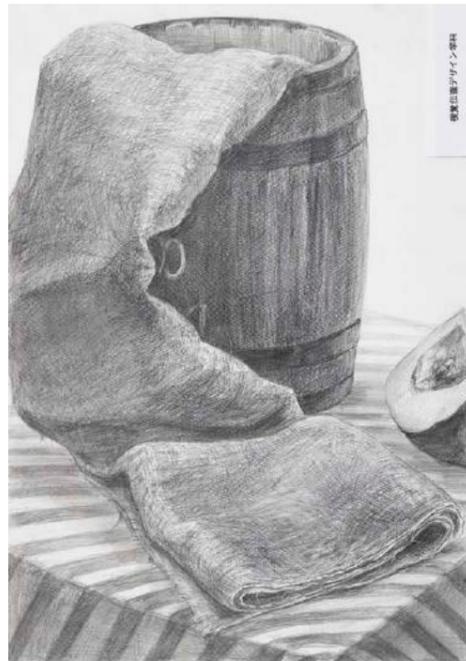
教員コメント

台の上のストライプの布を全て描かずに、奥行き表現のために効果的に使った作品である。樽と麻布の間の床、樽の中などが魅力的だ。パースが強過ぎる印象は否めないが作者の意図は明確に伝わる。残念なのはカボチャが台から浮いて見えることだ。



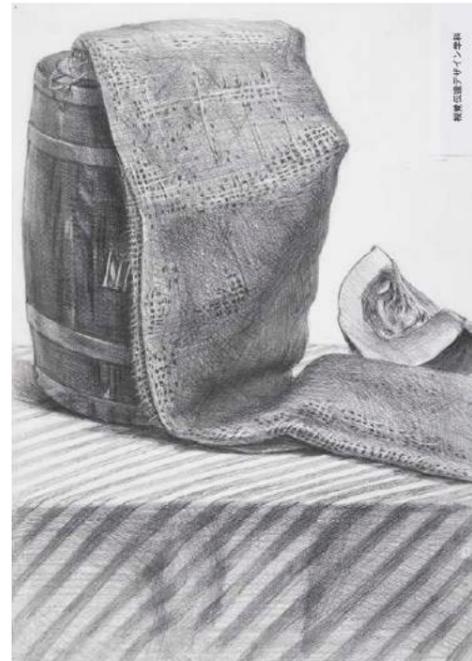
教員コメント

画面いっぱいの大きなデッサンが心地よい。テーブルの手前から奥までに、何がどこにあるのかを表現したかった意図が読み取れる。ただし樽と床面の接点をもっと気にしてほしい。特に麻布への執着心が大きな空間に導いてくれる。



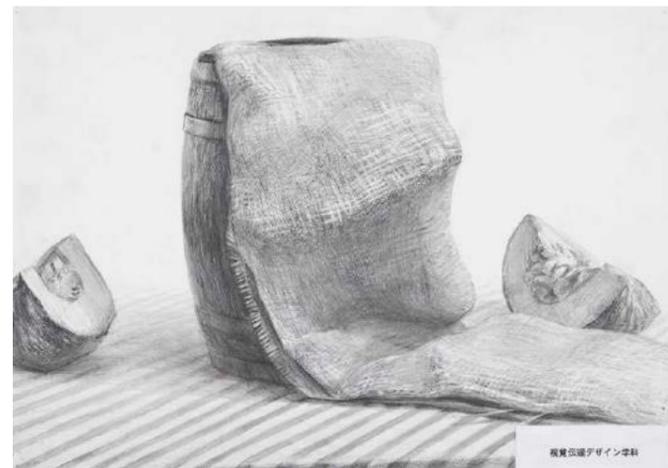
教員コメント

作者が伝えたかったのは全く違う素材の二種類の布だろう。擬音で表せばサラサラとゴワゴワか。人工的にプリントされたストライプの木綿の布がテーブルの手前にあり、自然素材の麻布が樽の縁から曲面に沿って垂れている。それらを比較するための大胆な構図である。



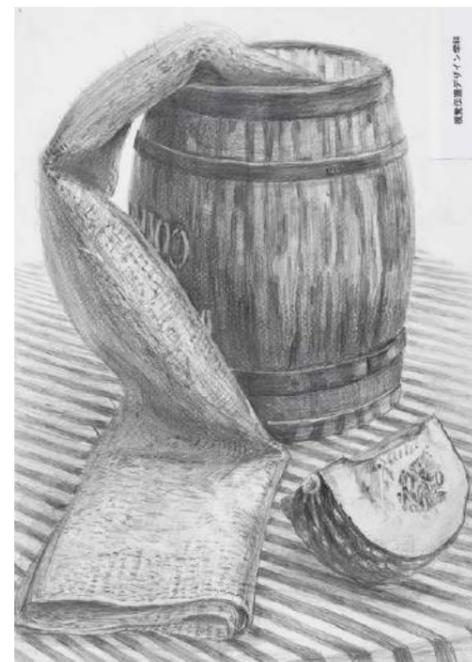
教員コメント

麻布が樽をほぼ隠す難しい位置で、樽の表現で苦労したと思われる。麻布とカボチャの間のストライプのパースが狂っているのが残念だが、麻布のザックリした質感や、カボチャの種やワタをよく観察し執拗に描いている点が良い。



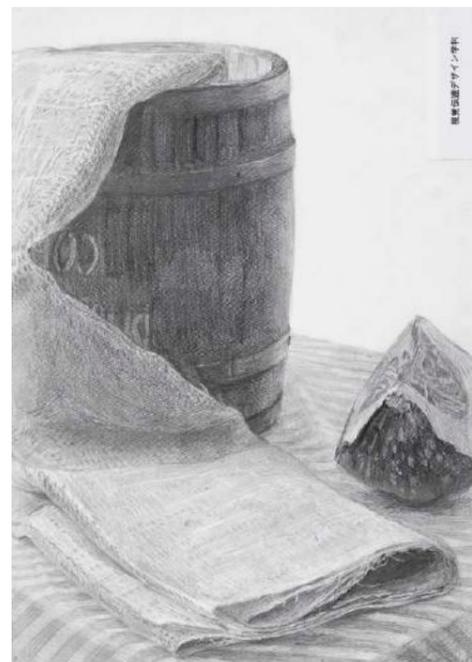
教員コメント

一見構図に失敗したのかと思ってしまうが、この難しい位置からモチーフの特性を生かして、空気を感じるとも魅力的なデッサンだ。作者がモチーフから向き合ってみようと思った自信が伝わってくる。



教員コメント

一つひとつのモチーフをシッカリ見て、床面のストライプからカボチャ、麻布、樽の木と金属の枠の箱などそれぞれの質感が見事に表現されている。写真撮影でファインダーを覗いてフレームを決める時のように、画面の手前から左右の表現に気を配るともっとよくなっただろう。



教員コメント

とにかくこのカボチャは食べたい。麻布が樽から垂れ、質感も確で、樽の縁もシッカリと描かれている。床面との関係で重量さを感じる作品である。画面の中にこうしたポイントがリズムカルに配置されて、作者が画面に限らず取り組んでいる姿勢に好感が持てる。



部活が終わって家にたどり着いた時

教員コメント

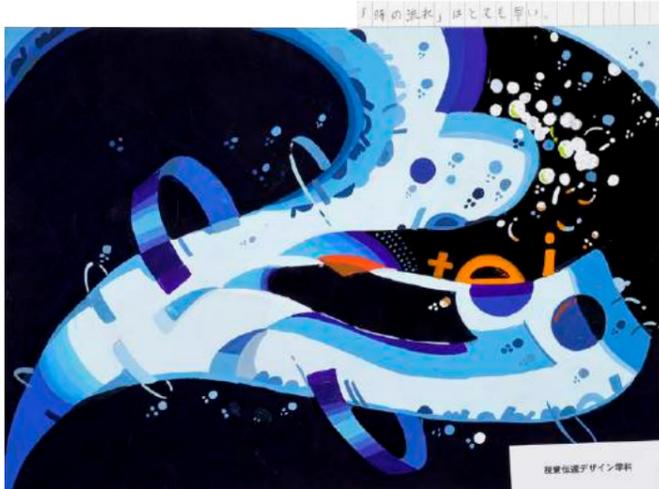
モチーフの切り抜き文字シートを夜の闇に見立て、文字がめくられて裏から温かい光が漏れて来る表現によって、夜の帰宅時の心細くもホッとした心象風景が伝わってくる。



情熱をもって、未来へはばたいている。

教員コメント

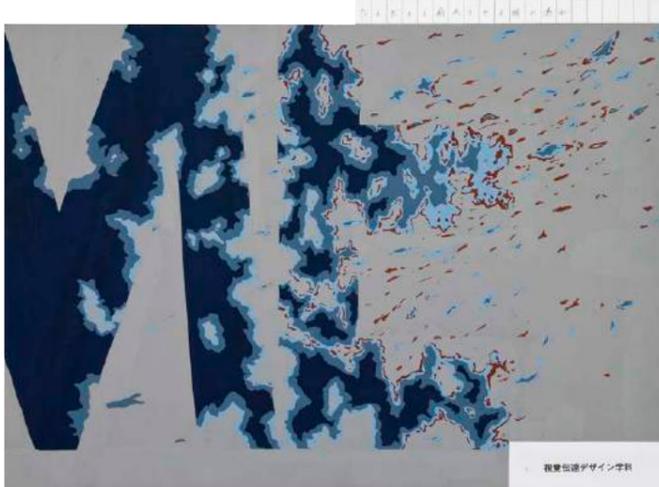
背景の濃い色彩が、モチーフを立体的に組み合わせた羽ばたくイメージに力強さを感じさせている。素材感の取り入れ方も秀逸だ。



「時の流れ」はとても早い。

教員コメント

切り取られた文字の部位と緻密な気泡が、点・線・面の構成要素として使われ、それらと渦の回転が時の流れとして表現されている。



だんだんと風化させる時の流れ

教員コメント

寒色系の色と、また穴やサビのような色を活用すること、さらに右上へと舞い散るような描写をもって「風化」という寂しげな感じが上手く表現されている。



時が流れ、葉は紅葉し散っていく

教員コメント

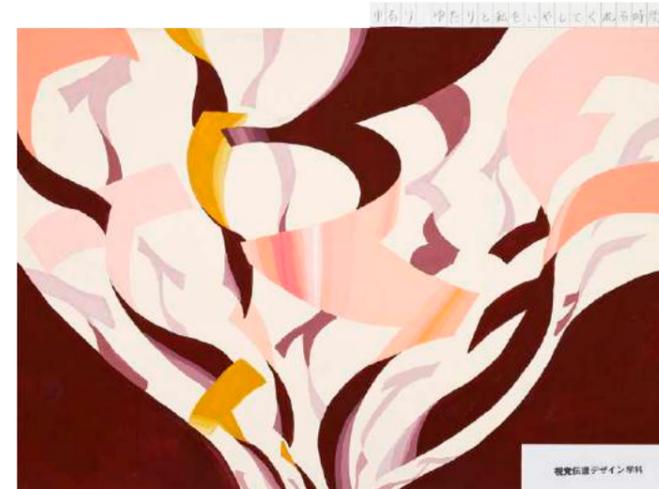
黄色と赤色を基調とした構成と、そこに影や裏の黒い部分を少しだけ配置することで、美しいながらも散りゆく寂しげな紅葉を上手く表現している。



重なるごとによってゆく「時」

教員コメント

「多層」によって「時」を感じる。四枚の「TIME」に補色、図と地、グラデーションなどさまざまなバリエーションを持たすことで「変化している」ことをよく表現している。



ゆるり、ゆたりと
私をいやしてくれる時間

教員コメント

与えられた「TIME」の文字を下から湧き出る湯気のような形状に上手く変換していて、「ゆるり、ゆたり」感がよく表現されている。



波のゆらぎのように
ゆったりとした流れの時

教員コメント

波間の境界をたゆたう文字。手前と奥の空間の対比は大胆かつ繊細。そのため、その遠近感時間軸としての説得力を持って迫り来る。



どうあがいても、
止めることはできない。

教員コメント

球体に絡め取られていく「TIME」。剥ぎ取られた痕跡としての文字の軌。この具体性を持った表現が、無限の軌道を力強く表している。



時間と共にろうそくは燃える

教員コメント

冷たく直線的な文字と柔らかなフォルムの炎。この相反する二項は、互いの関係を保ちつつも間にある空間を介して時をともにする。



アイデアをしばり出そうと
悩み苦しむ時間

教員コメント

ねじって絞り出されそうになっているエネルギーを熱と光で表現した。重苦しさの中にアイデアが輝き始める瞬間を捉えている。



あの時の記憶は段々とうすれ、
ぼやけていく

教員コメント

上から液体をかけ、書いた文字を滲ませることで、ゆっくりぼやけていく時間を描写。異なる文字の色による液体の透明感も効果的だ。

夜明けの時間が流れ出し
一日が始まる瞬間

教員コメント

朝の光が差ししてくる一瞬を遠近感によって視覚化した。モチーフを自在に使った構成は、陽光の大胆さと繊細さを両立させて美しい。



時は光のごときはやさで
過ぎ去ってしまう

教員コメント

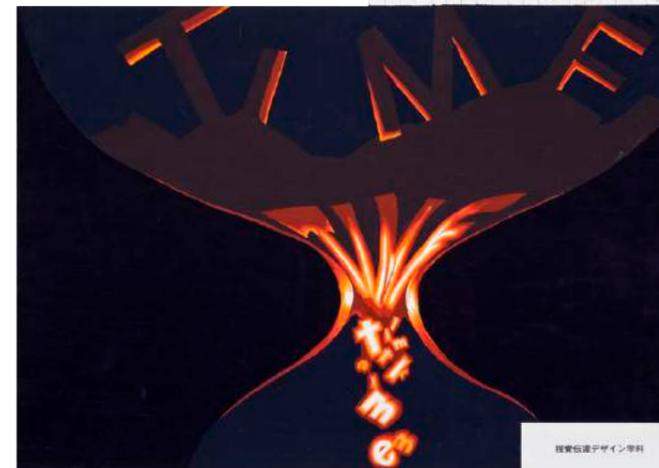
暗い紺色の背景に明るいクリーム色と水色の光のイメージが鮮やかに目に飛び込んで来る。左上へ吸い込まれるような大胆な構図も効果的で、巧みな造形感覚が窺える。



砂時計の様に
決められた量の人生という時

教員コメント

砂時計のくびれの部分で、大文字の「TIME」が細かく砕けて小文字になって落ちていく。砕ける時の灼熱の表現が人生の何を表しているのか、見る者それぞれの想像力を刺激する。



時間が経つにつれて
記憶が段々薄れる

教員コメント

記憶のもろさが、軽く柔らかな「TIME」の文字のかたちで表現されている。白い下地を生かし、紺色から黄色へのグラデーションを使った溶けて蒸発する様が印象的だ。

